

山行報告書

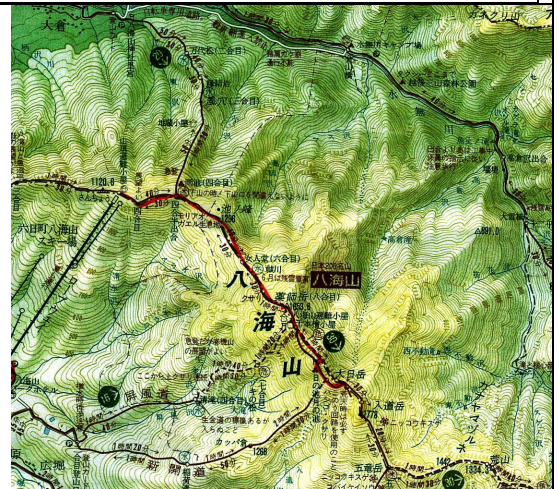
作成:2007年10月1日
愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	苗場山・八海山	目的[方法]	初秋名山探訪
期間	2007年9月21日(金)~23日(土)	形態	前夜泊1泊2日
参加人数	3人		

行動記録:

日程	コース (表記例: 鉄道 +++, 車 ==, 徒歩 ---, 所要時間 --:0:40--)
7/21 (金) 22 (土)	豊田IC(1930) =1:10= 中津川SA(20:20) =21:07= 駒ヶ根SA(21:07) =2:08= 苗場下駐車場(23:15) TS1 (5:30) 上駐車場(6:10) -0:20- 和田小屋(6:30) -1:20- 7合半(7:50,8:00) -0:50- 神楽ヶ峰(9:00) -0:35- 雷清水(9:15,9:25) -0:10- 遊山閣、頂上(10:30,11:30) - 雷清水(12:30) - 仲之芝(13:15) - P(13:30) 宿場の湯(600円) 上越高速道路 = 八海山ロープウェイ下駐車場(19:15) TS2
7/23 (日)	TS2(6:00) ロープウェイは 8:00 ~ 頂上駅(8:15) -薬師岳-225- 千本檜小屋(10:40,11:00) -1:00- 大日岳(12:00,12:30) -0:50- 千本檜小屋(13:20,13:30) -0:40- 女人堂(14:10,14:20) -1:00- 頂上駅(15:20) -0:15- P(15:30) = 六日町健康推進センター清流館(16:00,17:10) =6:35= 鞍が池 SA(23:45,24:00) = 豊田IC(24:05) =0:15= 岩津市民C(24:20)

概念図



日誌: 苗場山と聞くと、ユーミンの歌を思い出す。都会のスキー客が集まるしゃれたスキー場に続く山であると考えていた。東京からは中央フリーウェイと歌にあるように高速で新幹線で一とびかかも知れないが、岡崎からはちと遠い感がある。しかし、運転し慣れた同伴者のおかげで、後部座席でうとうとしているうちに苗場スキー場下駐車場に着く。ゲートがあるので進入禁止と思ひ下の駐車場でTSする。(このゲートは山菜取りの人が入らないためのようだ)13:00 就寝星がきれいであった。深夜、近くに不審車と思いきや、K夫妻であった。15:30 皆再び仮眠。5:00 に起き上駐車場へ20台ほど車が駐車している。水洗のトイレもある。6:10 和田小屋まで整備された道に行く。小屋に泊まる人はこの道を車で行くことができる。ロープウェイは稼動していない。樹林帯の中を軽快に頂上を目指す。一面に広がる笹の平原などどこかで見た風景が続く。美しい。気持ちがいい。K氏とS氏の軽妙なジョークのやり取りを楽しみながら高度を上げる。苗場スキー場の頂上は神楽ヶ峰であり、山スキーの初心者用にもってこいだとK氏が喜んでた。この峰の奥に苗場山は控えていた。其の雄姿が眼前に見えた。やはり100名山と言われるだけの山だ。登りにかかる前に「雷清水」と呼ばれる名水がありのどを潤す。1時間余りの急登で頂上に出る。眼前に広がる池塘。別世界だ。T氏がここで一泊したいと言っていた気持ちが理解できた。余りの気持ちよさに休憩ポイントで30分ほど皆昼寝をしてしまった。下山しかかると次々に団体が登ってきた。頂上の小屋は満室の看板が出ていた。車に着くと待っていたように雨が降り出した。ラッキーであった。

K氏夫妻と別れ、八海山ロープウェイ下でTS。男性陣は、温熱岩盤テント(コンクリートがほてっていて温かい)で寝苦しい夜を過ごしたようである。早朝に雨が降り八海山はガスの中とあきらめていた。ロープウェイは8:00 スタート霧の中を進む。頂上近くなると霧が晴れ、見通しが利くようになり一安心。なだらかな登りを進めるうちに、越後三山の越後駒ヶ岳、平ヶ岳が見え雄大な景色が広がり始めた。眼下には魚沼産コシヒカリの田園地帯が広がり、日本の風景!八海山は八つの山が連なるところから銘名されたようである。地藏岳、不動岳、七曜岳、白河岳、釈迦岳までは鎖ありの岩登りを楽しみながら進んだ。其の先、摩利支岳、剣峰、大日岳は鎖不備のため地元の方が修理中であったため迂回した。帰路修験者がほら貝をならしながら下山してくるのに出会う。越後三山を逆コースで制覇されてきた様子の73歳の老人、紅顔の美青年白装束がまぶしい。S氏によれば平ヶ岳と八海山の道は整備されていない道だとか。ほら貝を吹く修験者に「山に登ることは修行していることである。」と言われ精進しなくてはと片時感じたのであった。

感想: 新潟には、たよやかな良い山がたくさんあることを知り、また出掛けたいと思いました。